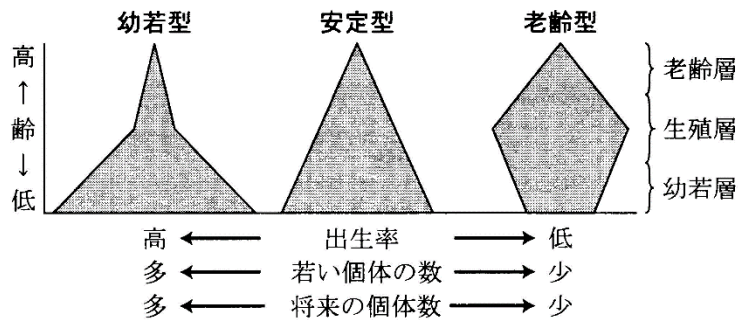


復習シート ハイレベル生物② 2学期 7回目

第34問 第2学期 個体群の構造(その1)

次の図は、個体群の各年齢ごとの個体数を表したものである。これに関する下の各問いに答えよ。



問1 個体群内の、各年齢ごとの個体数分布を何というか。また、これを表した上の図を何というか。

問2 上の図を説明した次の文章中の空欄(ア～ウ)に適する語句を入れよ。

幼若型の個体群は幼齢の個体が多く、これらが生殖年齢に達すれば多くの子どもを産む。よって、将来この個体群は、(ア)。

安定型の個体群は(イ)と(ウ)がほぼ等しい。つまり、将来この個体群は、(エ)。

老齢型の個体群は、(イ)が(ウ)より低い。よって、将来この個体群は、(オ)。

【解答】第2学期 第34問

問1 分布：年齢構成 図：年齢ピラミッド

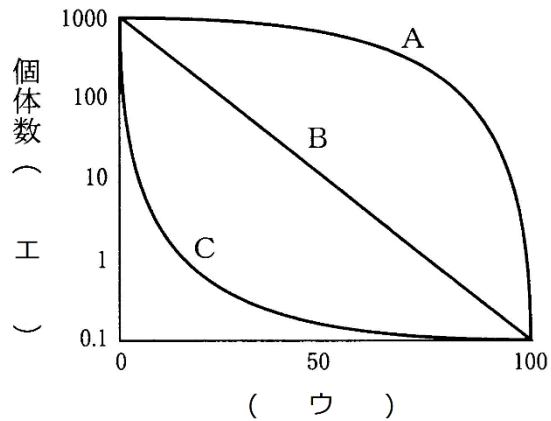
問2 ア - 個体数が増加する可能性が高い イ - 出生数 ウ - 死亡数

エ - 個体数が変化しない可能性が高い オ - 個体数が減少する可能性が高い

第 35 問 第 2 学期 個体群の構造(その 2)

問 1 次の文章中の空欄(ア～エ)に適する語句を入れよ。

同時に出生した集団の個体数が時間とともにどのように変化していくかを記録したものを(ア)といい、これをグラフにしたものを(イ)という。横軸は(ウ)で、縦軸は個体数を表すが、目盛りが(エ)になっている。



問 2 問 1 の図の A～C の生物に関係が深いものを、次の①～⑩のうちからそれぞれすべて選び出せ。どれにあたるか。それぞれ答えよ。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 大型の鳥類・哺乳類 | ② 小型の鳥類・哺乳類 |
| ③ 産卵数・産子数が非常に多い。 | ④ 産卵数・産子数が非常に少ない。 |
| ⑤ 海水中に産卵するもの。 | ⑥ 陸上に産卵するもの。 |
| ⑦ 淡水中に産卵するもの。 | ⑧ 各年齢の死亡率が一定である。 |
| ⑨ 保育が発達しているもの。 | ⑩ 保育はあるが、それが弱いもの。 |

【解答】第 2 学期 第 35 問

問 1 ア - 生命表 イ - 生存曲線 ウ - 相対年齢 エ - 対数目盛

問 2 A : ①④⑨ B : ②⑥⑦⑧⑩ C : ③⑤

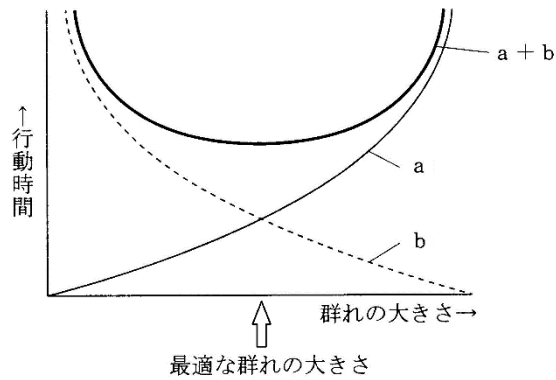
第 36 問－ 1 第 2 学期 相互作用(同種どうしの関係 その 1)

問 1 「群れ」に関する次の各設問(1～3)に答えよ。

設問(1) 群れを形成することによって得られる利点を 3 つ答えよ。

設問(2) 群れを形成することによって被る不利益を 2 つ答えよ。

設問(3) 下の図の $a \cdot b$ はそれぞれ何を表すか。



【解答】第 2 学期 第 36 問－ 1

問 1

設問(1) 食物の発見が楽・配偶者の発見が楽・天敵の発見が楽

設問(2) 伝染病が広がりやすい・資源(←配偶者・食物のこと)を巡る種内競争が激化

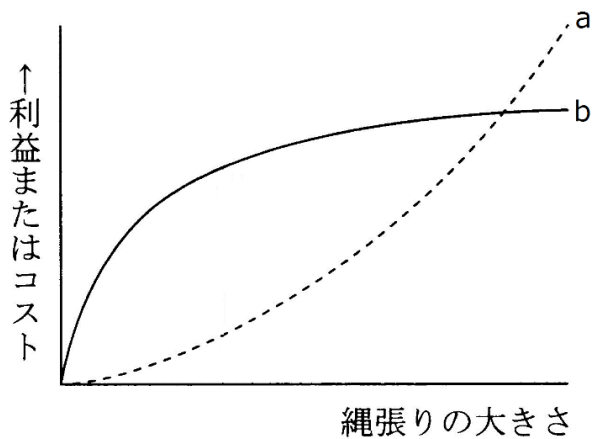
設問(3) a : 種内競争 b : 個体あたりの周囲を警戒する時間

第 36 問－2 第 2 学期 相互作用(同種どうしの関係 その 1)

問 2 縄張りに関する次の文章中の空欄(ア～カ)に適する語句を入れよ。

定住している個体が日常的に動き回る範囲を(ア)といい、(ア)のうち「他個体の侵入が排除され、個体やつがいに占有されている空間」を縄張りという。縄張りをつくる目的には(イ)を占有するためや、(ウ)の確保や(エ)を目的にしたものがある。魚の(オ)は前者の、シジュウカラなどの多くの(カ)は後者の縄張りをつくることが知られている。

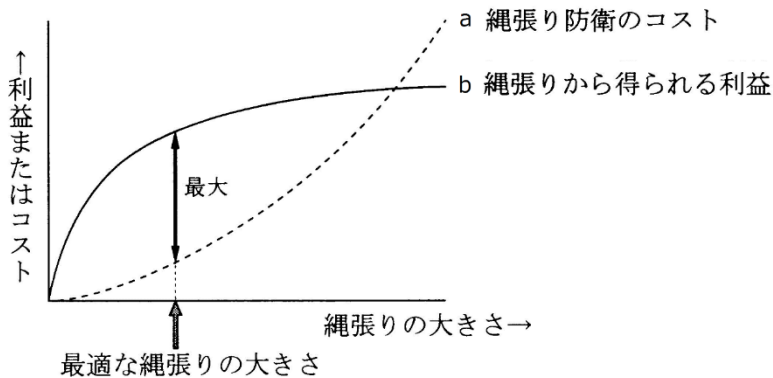
問 3 右図中の a・b は何を表すか答えよ。また、縄張りの大きさとして最もよいのはどの当辺りかを図示せよ。



【解答】第 2 学期 第 36 問－2

問 2 ア - 行動圏 イ - 食物 ウ - 配偶者 エ - 子育て オ - アユ カ - 小鳥

問 3



第37問 第2学期 相互作用(同種どうしの関係 その2)

問 次の文章中の空欄(ア～ソ)に適する語句・数値を入れよ。

ある個体Aから別の個体Bをみたとき、BはAとどのくらい同じ遺伝子を持っているかを数値で表したものを(ア)という。例えば、有性生殖を行う「 $2n$ 」の動物の場合で、Aを母親(または父親)、Bをその子どもとすると、BはAの半分だけ同じ遺伝子もっているので(ア)は(イ)である。つまり、Aは自分の子どもを2匹残せば、自分の遺伝子を(ウ)だけ、4匹残せば(エ)だけ残したことになる。また、BからBの子ども(Aの孫)を見れば、やはり(ア)は(イ)なので、AとAの孫との(ア)は(オ)となる。また、Aが姉でBが弟とすると、確率的にBはAの半分だけ同じ遺伝子をもっている所以(ア)は(カ)となる。ということは、姉が2匹の弟を世話して成体に育て上げれば、姉は自分の遺伝子を(キ)残したことになる。

ところが、 $2n$ だとメスで、 n だとオスになるような社会性のハチ・アリの場合は少し数値が違ってくる。まずAが母親でBが子どもの場合、Aから見たBとの(ア)は(イ)であるが、Aが父親の場合、子どもであるBは父親の遺伝子を必ずすべて持っている。従ってAから見たBとの(ア)は(ク)となる。また、Aが姉で、Bが妹の場合、Aから見たBとの(ア)は(ケ)となる。ということは、母親となって自分の子どもを2匹育て上げた場合、自分の遺伝子を(コ)だけ残したことになるが、姉となって自分の妹を2匹育て上げた場合、姉は自分の遺伝子を(サ)だけ残したことになる。つまり、「 $2n$ だとメス・ n だとオス」というような性決定を持った動物の場合、自分の遺伝子を増やすには、自分の子どもを世話するより、自分の妹を世話した方が効率が高い場合が出てくるのである。これが、(シ)を作る昆虫、すなわち社会性昆虫が進化してきた原因であるらしい。

このように、「生物は、自分の子孫を残そうとしているのではなく、自分の持っている遺伝子を増やそうとしている」という説を(ス)という。オナガやカワセミ、そしてジャッカルなどは、前年に生まれた個体が縄張り内に残り(セ)となって妹・弟を世話するが、このような「親以外の個体による子育て(=ソ)」も(ス)で説明できる。

【解答】第2学期 第37問

ア - 血縁度 イ - 0.5 ウ - 1.0 エ - 2.0 オ - 0.25 カ - 0.5 キ - 1.0

ク - 1.0 ケ - 0.75 コ - 1.0 サ - 1.5

シ - コロニー(←「カースト制」としても意味は通るね)

ス - 血縁選択説 セ - ヘルパー ソ - 共同繁殖

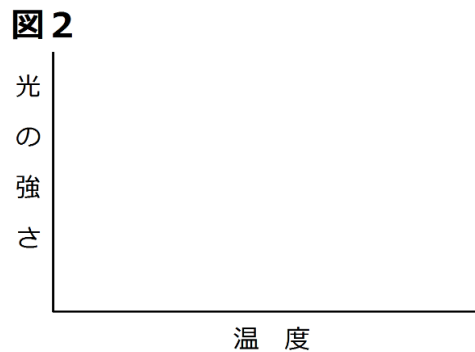
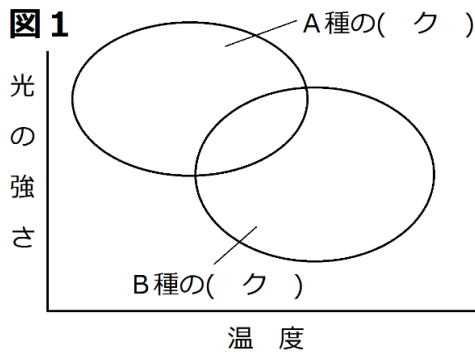
第 38 問 第 2 学期 異種どうしの関係(その 1)

問 次の文章中の空欄(ア～ソ)に適する語句を入れよ。また、図 2 を完成させよ。

生物学では「食物・生活空間・配偶者など」をまとめて(ア)と表現する。同種どうしであればこれら(ア)を巡って(イ)が起こる。そして異種どうしでも、配偶者以外の(ア)を巡って(ウ)が起こる。このとき、「どんな食物を必要とするか?」「どのような生活空間を必要とするか?」など「必要とする(ア)とその使い方」を(エ)という。つまり、前記の内容を別の方法で表現すると、「(オ)の重なりが大きい異種どうしは、共通の(カ)をめぐる(キ)が起こる」となる。従って、逆に「(オ)の重なりが小さい異種どうしは、同じ地域で(ク)可能である」ということになる。

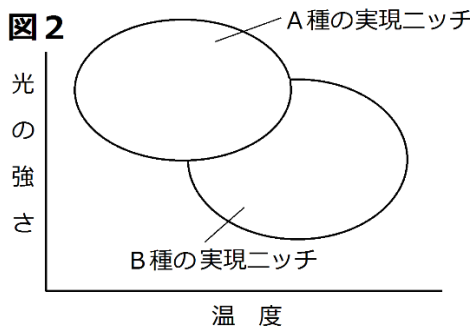
また、ある種が単独で存在するときに占有する(ア)を(ク)、他種と共存し、(ウ)の結果変化した(エ)を(ケ)という。下の図 1 は、ある植物 A 種と B 種の(ク)を表している。仮に A の方が競争力が強いとすると、両者の(ケ)は図 2 のようになる。

なお、異なる地域に生息し、同じ(エ)を占めている種どうしを(コ)という。例えば、アフリカの(サ)・アジアの(シ)・シベリアの(ス)・北アメリカの(セ)・南アメリカの(ソ)は(コ)である。



【解答】第 2 学期 第 38 問

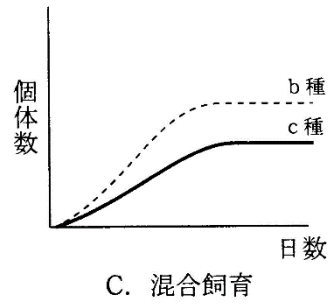
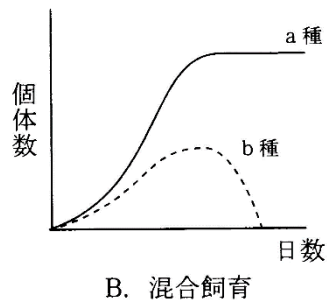
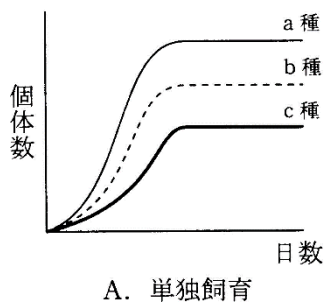
- ア - 資源 イ - 種内競争 ウ - 種間競争 エ・オ - ニッチ (=生態的地位)
 カ - 種間競争 キ - 共存 ク - 基本ニッチ ケ - 実現ニッチ コ - 生態的同位種
 サ - ライオン シ - トラ ス - ユキヒョウ セ - ピューマ ソ - ジャガー



第 39 問 第 2 学期 異種どうしの関係(その 2)

問 次の文章中の空欄(ア～ク)に適する語句を入れよ。

(ア)の重なりが大きい異種どうしは、共通の(イ)をめぐる(ウ)が起こり、どちらかの種が駆逐される。これを(エ)という。逆に、(ア)の重なりが小さい異種どうしは、同じ地域で(オ)可能である。下の図Aは、3種類のゾウリムシ(a～c)を、それぞれ単独飼育したときの(カ)である。図Bはa種とb種を、図Cはb種とc種を混合飼育したときの(カ)である。図Bからは、a種とb種は(ア)の重なりが大きく、(ウ)が起こり、b種が(キ)されたことがわかる。また、図Cからは、b種とc種の(ア)の重なりは小さく、単独飼育の場合に比べれば個体数は減るものの、両種は(ク)していることがわかる。



【解答】第 2 学期 第 39 問

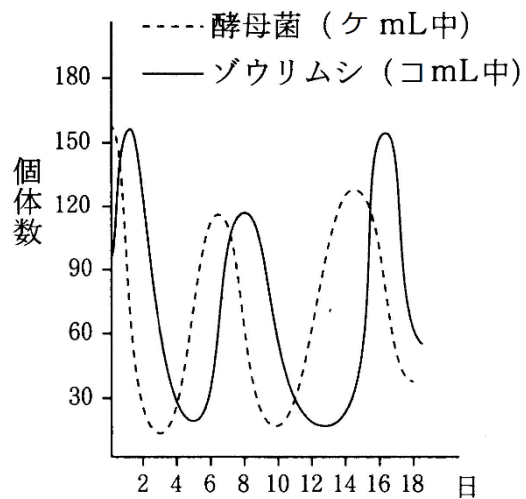
問 ア - ニッチ(生態的地位) イ - 資源 ウ - 種間競争 エ - 競争的排除
 オ - 共存力 - 成長曲線 キ - 競争的排除 ク - 共存

第 40 問－1 第 2 学期 異種どうしの関係(その 3)

問 1 次の文章中の空欄(ア～)に適する語句を入れよ。なお、図中の(ケ)・(コ)には、それぞれ 0.1 か 15 のどちらかを入れよ。

2 種の個体群間における食う食われるの関係を(ア)といい、食う側を(イ)、食われる側を(ウ)という。多くの場合、(イ)はさらに高次の(イ)に捕食され、その(イ)はさらに高次の・・・というように、食う食われるの関係は鎖状につながっている。これを(エ)という。しかし、実際には(イ)と(ウ)は鎖状ではなく、複雑な網目状になっているので(オ)という。

右の図 A は、(イ)であるゾウリムシと、(ウ)である酵母菌の個体数の変動を表している。この図からわかるように、(イ)と(ウ)の個体数は(カ)に変動している。これは、(ウ)が増加すれば、それを餌とする(イ)が増加し、(イ)が増加することで(ウ)が減少し、(ウ)が減少すれば、これは餌が減ることであるから(イ)が減少する・・・という具合である。このように、(ウ)の変動が(イ)に(キ)するようになっている。また、一般的には、(ウ)の個体数は(イ)に比べ圧倒的に(ク)である。



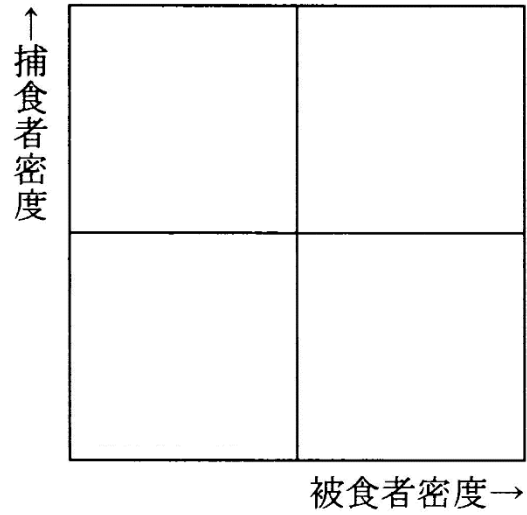
【解答】第 2 学期 第 40 問－1

問 1

ア - 被食者－捕食者相互関係 イ - 捕食者 ウ - 被食者 エ - 食物連鎖
 オ - 食物網 カ - 周期的 キ - 先行 ク - 多数 ケ - 0.1 コ - 15

第 40 問- 2 第 2 学期 異種どうしの関係(その 3)

問 2 下の、捕食者の密度と被食者の密度を表すグラフを完成させよ。



【解答】第 2 学期 第 40 問- 1

問 2

